

## 肝臓がんにならないための新しいインターフェロン治療

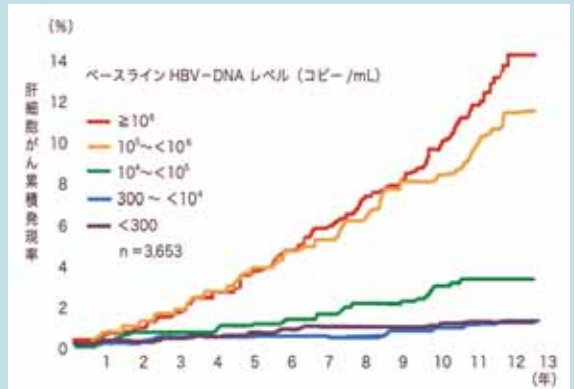


肝がんは、**慢性肝炎** → **肝硬変** と肝病変の進行に伴い、肝発がん率が上昇することがわかっています。したがって、B型肝炎やC型肝炎の治療が肝がんの予防になります。

肝臓病治療センターでは、肝疾患の治療は、肝がんを発生させないことを主眼においており、インターフェロン治療等、新しい治療方法を積極的に取り入れ、肝がんの予防に努めております。

### 1 B型慢性肝炎に対する治療 インターフェロン治療や核酸アナログ製剤 (エンテカビルなど)の内服治療があります

この抗ウイルス療法により肝炎ウイルスの活動性が低下すれば、肝がんが予防されます。またインターフェロンと核酸アナログとを一時併用して、その後投薬を止めいく治療(**シークエンシャル療法**)により、B型肝炎の根治療法薬物終了を目指しています。



B型肝炎ウイルスが多いほど、発癌率が上昇します。

### シークエンシャル療法

#### A 一定期間の併用療法を開始する場合

①同時併用

核酸アナログ製

インターフェロン

②シークエンシャル療法  
(狭義)

核酸アナログ製

インターフェロン

#### B 核酸アナログ製剤の中止に際して、インターフェロンを併用する場合 (広義のシークエンシャル療法)

核酸アナログ製

インターフェロン

B型肝炎治療薬の核酸アナログとインターフェロンとを約6ヶ月併用することにより、薬物終了を目指す治療が、シークエンシャル療法です